

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果

京都市立元町小学校

4月17日に、全国の6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」についての結果がまとまりました。本調査は、国語・算数・理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や、日頃の行動・意識等を問う調査(アンケート)も実施されています。全国などの結果を踏まえた、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果 (国語・算数・理科)

本校の平均正答率は、3教科(国語・算数・理科)において、全国平均を上回る良好な結果でした。記述式の問題にも最後まで取り組んでいました。

国語科より

全体的によくできています。特に、「話し合いの記録の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する」問1二の正答率が全国・京都府の正答率を15%以上も上回る結果となりました。情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができていました。本校では、対話力に重点を置き、話し合い活動を積極的に取り入れてきました。話したことをまとめ伝える活動を繰り返すことで、情報をうまくまとめたり伝えたりする力が養われてきたのではないかと考えられます。

しかし、「インタビューの様子の一部から、発言した目的として適切なものを選択する」問題1三(1)の正答率は、全国・京都府の平均を下回りました。話し合い活動の中では、相手の意図は何なのかを捉えて、考えをもつことを大切にしていきたいと考えています。

算数科より

全体的によくできています。ほとんどの問題で、全国および京都府の平均を上回っています。特に「方眼上の5つの図形の中から、台形を選ぶ」問題2(2)の正答率は、全国・京都府の正答率を10%以上上回っていました。また他にも「はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む」問題4(3)の正答率も高く、「知識・技能」の観点に対する問題の正答率が良かったです。授業では、前回の学習をふり返って、本時に入る流れを取ることで、既習事項の定着が図られていると考えられます。

しかし、「出荷量の増加を調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く」問題1(2)の正答率が全国・京都府の正答率を下回りました。なぜそうなったのか、理由などを書くことを苦手としていることが分かりました。授業の中では、根拠を大切にし、自分の思いを発表したり、書いたりして伝えることをより意識して取り組んでいきたいと思います。

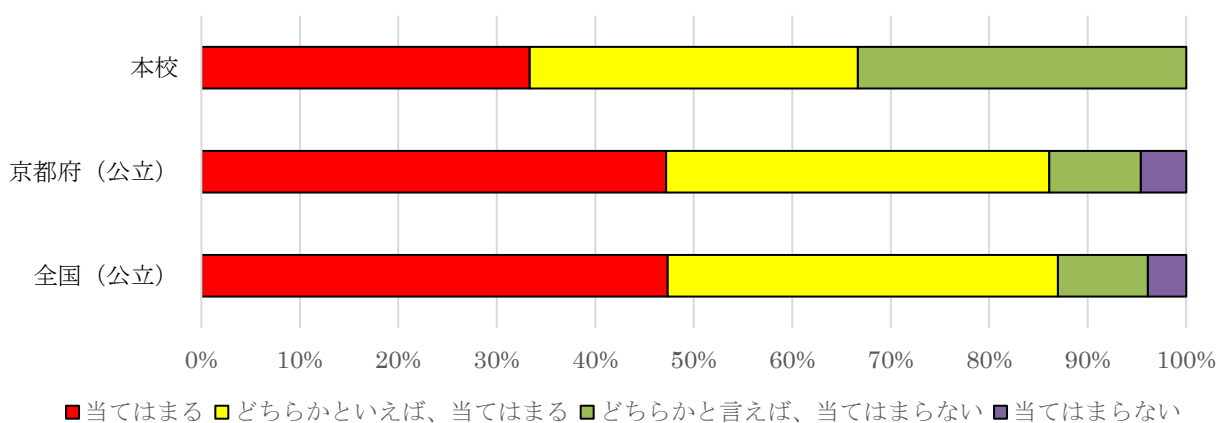
理科より

全体的によくできています。特に「ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ」問題3(2)、「水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く」問題4(1)の正答率は、全国・京都府の正答率を30%ほど上回っていました。顕微鏡の操作を適切に行う技能や問題に対する観察・実験の方法について適切かどうかを検討する力が身に付いていることが分かりました。実験器具に触れる機会が多く、使い方が定着しやすい環境が結果に表れていると思われます。また、問題解決力にも重点を置いていることから、問題に対して、どのように解決すればよいのかを考えることにも慣れてきた成果なのではないかと考えられます。

しかし、「アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ」問題2(1)の正答率は、全国・京都府の正答率よりも下回りました。「エネルギー」を柱とする領域の正答率が、他に比べて低い結果となりました。身の回りにあるものとの関連付けを行うことで、興味や関心がさらに湧いてくると考えます。子どもたちの「なぜだろう?」「確かめたい!」という思いを大切にしながら、引き続き学習を進めていきたいです。

児童質問紙調査①より

自分には、よいところがあると思いますか

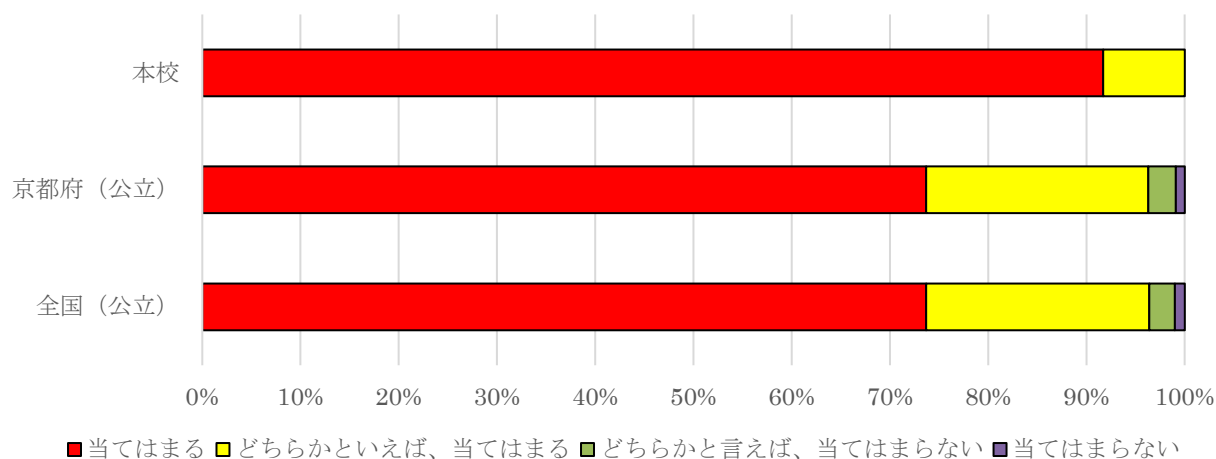


本校では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、約67%でした。京都府では約86%、全国では86.9%の割合となっています。本校は、京都府、全国よりも約20%も低い結果となりました。本校の子どもたちは、自分で自分の良さを感じている子が少ないことが分かります。

2学期は、運動会や学習発表会など6年生が中心となって活躍する行事も控えています。行事も含め様々な活動に対して、頑張って取り組むことで、自分自身の自信につなげていってほしいと思います。

児童質問紙調査②より

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



本校では、「当てはまる」と回答した割合は、約92%、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、約8%で、合わせると100%となりました。京都府では「当てはまる」と回答した割合は、約74%、全国でも「当てはまる」と回答した割合は、約74%でした。本校は、京都府、全国よりも約18%も高い結果となりました。本校の子どもたちは、人の役に立ちたいと思っている子どもが大変多いことが分かります。

実際に、たてわり遊びやたてわり掃除などのたてわり活動や委員会活動、クラブ活動において、6年生は、下級生のことをよく考えて活動を進めています。人のために何かをしたいと思う子どもが多いのは、とても頼もしいです。最高学年として、学校をよくするために、みんなが楽しく学校生活を送ることができるように、どうしたらよいかを考え、行動していったほしいと思います。そうした行動からも、自分の自信につながればと思います。

